

高森の丘

阿賀野川右岸にあって、標高17.6mの独立したこの丘は、地域のシンボルです。

■高森の大ケヤキ (県指定天然記念物)

稲荷神社の横にある大ケヤキは、推定樹齢1200年で、県内のケヤキの中では2番目に大きいケヤキです。根回り12.4m、目通りのまわり10m、高さ20mで王者の風格です。北区では唯一の県指定天然記念物です。老樹のため幹や枝が空洞化して折れやすくなっていますが、地域のシンボルとなっています。

■稲荷神社

717(養老元)年の創建と伝えられ現在の社殿は1860(万延元)年に建立されたものであると伝わっています。社殿の隣にある舞殿では、祭礼のときに高森の神楽が奉納されます。

■高森薬師堂

越後の名薬師といわれる薬師如来がまつられています。さまざまな説がありますが、持統天皇の時代に唐の高僧が暴風雨にあってこの地に漂着し、持っていた薬師如来を安置したのが始まりで、奈良時代から平安時代にかけて繁栄したといわれています。京都の仏師 辰巳蔵之助へ1704(宝永元)年に依頼した薬師如来を納めてお堂を再興しました。1974(昭和49)年、前年に火災で消失した薬師堂が再建され、新しい薬師如来も迎えしました。12年ごと子年に薬師如来の御開帳が行われています。

■薬師山の碑

「薬師山」とは、岡方地区のアマチュア相撲で代々受け継がれた四股名です。相撲は、地域の若者たちの力試しと娯楽として始まり、まつりでは奉納相撲が行われていました。優秀な選手には岡方の地名をとった四股名が受け継がれました。この碑は、三代薬師山として20年連続国体に出場した野村敏雄氏が奉納した歴代薬師山の顕彰碑です。

木崎の歴史の道

■陸の道「新発田街道」

新発田街道は、新発田城下と沼垂や新潟の湊を結ぶ道であったので、この名で呼ばれています。北区では、笠柳〜横井〜内島見〜木崎〜木伏〜新崎を通っています。この辺りでは通称「木崎街道」とも呼ばれています。

街道沿いにはハシノキや松が植えられました。夏は日陰をつくり、雪のときには道路の所在を示す目印になりました。1878(明治11)年に明治天皇の北陸

巡幸の経路となり、天皇はこの街道沿いの新崎の古山家(太古山日長堂)や内島見の近藤家(内島見行在所跡)で休憩・昼食をとられています。このとき岩倉具視や大隈重信も随行しました。現在も、当時の人々が眼にしたのと同じく、広大な田園や遠くに五頭山系の風景が望めます。

近代日本の変革期の出来事が偲ばれるメモリアルロードです。



▲木伏付近の街道
(上・現在 下・1984年)

■川の道「旧新発田川」

木崎付近には街道に沿った川がありました。旧新発田川です。

この川は江戸〜明治時代には、新潟から通船川経由で阿賀野川を横断して遡上し、木崎、そして新発田へ至る舟の通り道でした。人や荷物を運ぶ川舟が行き交い、木崎では、舟待ちの人々を相手に茶屋がありました。

1878年、イザベラ・バードは新潟から舟に乗り木崎で人力車に乗りかえています。

■宿場町「木崎」

新潟と新発田の間に位置する木崎は、新発田街道と旧新発田川が並行する集落です。そのため、江戸時代から交通の要所で、宿場として栄えました。江戸時代に活躍した十返舎一九や幕末の思想家・吉田松陰は新潟〜新発田間を旅し、その途中、木崎に宿をとっています。新潟〜木崎間は舟で、木崎〜新発田間は陸路を行きました。



まちあるき？ してみませんか？

